

# 第1回東北風景街道交流会議 開催結果の概要

日時:平成25年12月5日(木) 15:00～17:45

会場:二日町東急ビル4F会議室

## 1. 挨拶

東北地方整備局 道路部長 川崎 茂信

日本風景街道のキーワードは地域の方々、NPOの皆様方、事業者の方、道路管理者という、色々な主体が協働で道を舞台にした誇りある地域をつくっていくような取組ではないかと思っております。それによって地域活性化、観光振興に結びつけられればというような狙いではないかと思えます。

今日の交流会議は、また新しい次のステップに踏み出すことになろうかと思っておりますが、各地域で活動していく中で見えてきた課題やうまくいっている例等を情報共有しつつ、さらにレベルアップに結びつけばと思っております。



東北風景街道協議会委員 東京大学 教授 堀 繁

それぞれの道路は、地域にとってかけがえのない宝です。それを大事にして、後世に継承していこうという皆様方の努力は大変素晴らしいと思っておりますけれども、ほかの人も魅力があると思っ行ってみたいというふうになるには、それぞれの状況に応じた魅力づくりを丁寧に行っていかなければいけません。観光振興、地域活性化につながった、つまりたくさんの方が来てお金が落ちた、お金が落ちて若者の就職の場をそこで確保できた、雇用の創出ができた。最終的にそのレベルまでになるように磨いて、魅力をつけるということを、次のステップにしていきたいなと思っております。



もう一つは、それぞれの魅力をどうアピールしていくかですね。正直言って、行かないとわからないのです。行かなくてもわかるように、インターネット、ユーチューブ、そういうツールを使ったアピールが非常に重要ではないかと思っております。魅力の磨き方、アピールの仕方については専門性が高いので、東北地整さん、国交省さんは支援をしていただきたいと思います。

## 2. 話題提供

本省 道路環境調査室 企画専門官 近藤 淳 【資料-1】

立ち上げてから5年経って、現在、全国に131ルート、90ルートでスタートしましたので、少しずつ増えてきています。道の駅は150からスタートして、いま1,000を超えましたけれども、弟分としてというか、引き続き全国共通の名前で活動していきたいと考えております。

毎年アンケートをさせていただいていますが、常に課題のトップ3にくるのが、資金、人材の育成、広報・PR、これが毎年定番の課題になっており、東京のほうでは昨年か



らテーマ別意見交換会というものを開催しておりまして、大体全国の団体の中から10団体程度に集まっていたいて、テーマを変えながら、年2～3回ずつ、企画・実施している最中です。

道の駅と風景街道というのは、かなり目的は一致しています。点在している道の駅を風景街道ルートで結んで、お互いに相乗効果を出していきたいというようなことで、いま各地で道の駅と連携するという取組が始まっていますし、高速道路のSA・PAでの風景街道PRを検討している地域もあります。

### 3. 東北風景街道の活動方針・進め方について

#### 東北地方整備局 道路計画第二課 建設専門官 増澤 亨 【資料-2】

この交流会議は持続的に進めていきたいなと思っておりまして、今年1年目に意見交換をいたしまして、その意見交換をした内容を実践してもらう。2年目にその結果を発表してもらう。必ずそうなるということまで固くは考えておりませんが、そういう流れで進めていきたいなと思っております。また、東北風景街道パンフレットの少しリニューアルを進めておりまして、おすすめドライブコースを少し入れ込んで、26年度早々には配布したいと考えております。表彰制度につきましては、活動している1つ1つの団体、細かい団体まで表彰の規模を落として、表彰対象団体を増やすことで検討しているところです。

### 4. 活動事例報告

#### ふくしま浜街道ハッピーロード 西本 由美子 【資料-3】

私は10年間、中学生、高校生と地域づくりの活動をしています。その震災前のワークショップ、フォーラムの中で、子ども達が自分たちの地域は自然が財産だから、桜並木をつくって全国から観光でお客様をお迎えしたいんだというアイデアがありました。私が震災で東京に避難しているとき、フォーラムで何度も会っている石巻高校の男の子からの励ましの電話で、子ども達と桜並木をつくろうと約束したことを思い出しました。子ども達がワークショップやらで考えた桜並木、今は浜通り、特に双葉郡の子ども達は家にすら帰れない状態なので、約束した大人達が植えればいいのかということで、私の悪戦苦闘は始まりました。



20年先、30年先に子ども達が故郷に帰って来ることを想像したときに、桜が満開になっていないといけないと思って国交省に国道を貸してくださいということで、お願いに行きました。桜は復興のため、子ども達のために県に買ってもらいました。あるのは気合いと気持ちだけだったんです。桜を管理するお金は全国の皆さんに桜の木1本1本のオーナーになってもらう。私達のところに桜の木に会いたいなと思って来てくれる。復興のため、震災を風化させないためにも、何十年先にも来てもらえる方法を考えました。一番大事なものは、こういうことをするとき、自分の欲だけでしては絶対にだめだなというのが、震災後、痛切に感じられました。子ども達に桜という形になる利益を残していつかあげつことが、大人の責任ではないかと思いつつ、12月から3月は桜を植える時期なので、1本1本愛情込めて植樹していきたいと思えます。

## 桑折宿まちなか街道 畠腹 桂子 【資料-4】

大震災、さらに原発事故の災害に見舞われ、桑折町の地域の人的な物的な資源、資産の破損や喪失はたくさんあり、まちなか街道いまだ復旧・復興に至っておりません。土蔵とか自宅とか、いまや更地になってしまい、虫食いの街道かななんて思っています。それでも魅力ある地域づくりのため、活動のエネルギーが萎えてしまっただけではないとの強い思いから、心の復興を掲げ、アンテナショップを始め、観光案内、おもてなし処として女性ボランティア達が取り組みました。24年3月7日には滞留拠点部門で優秀賞をいただきました。この受賞はどれほど私達に元気や勇気をいただいたことかと、改めてお礼申し上げます。

大地震・原発事故後に福島県桑折町、宮城県七ヶ宿町、山形県高島町、3県3町ホテル街道交流を重ねてきたことがベースとなって、防災協定を結べました。すなわち、行政サイドでの防災協定は民間から発展したというわけです。行政と住民のパートナーシップにより、安心・安全のための予防的な財産ができたことは、私達にとっても大変うれしいことです。

現在の取り組みは、桑折町の農産物の風評被害がいまだに払拭できないということで、風評被害払拭、震災風化防止等の目的で、ご飯の部、おかずの部、漬け物の三部門で、我が家のおもてなし料理の応募中です。



## 5. グループ討議発表

### Aグループ 人材の確保・育成

十和田では高校に観光科があって、しっかり人材育成をして連携をしながらやっているそうです。最初は1、2名からのセミナーから始まって、いまでは観光セミナーを受けて認定された高校生が観光ガイドを行っており、そういった人材を確保しながら運営しているとのこと。ハッピーロードでは、10年も前からハイスクールサミットという事業をやっておりまして、初期のころから携わっていた学生さん達が育っており、大学生や社会人になった皆さんにサミットの運営をほぼやっていただいております。



困っている例を紹介させていただきますと、年間の草刈りとか、維持管理が大変だということで、年々参加してくれる人が少なくなっている。高齢化が非常に進んでいて、賛助会員などを募っているんですが、人が集まらないとの話もありました。

同じ世代だけではなくて、小学校、中学校、高校、大学生との若い連携を図りながら、それが育まれていまいつながつて、前向きに運営されている方達が多かったとうふうに思われます。課題としては、高齢化や草刈りスタッフの人員不足、今後の資金繰りなどが挙げられました。

### 〈委員等からのコメント〉

・盛岡さんさではお父さんとかお母さんが踊りの方に参加するときに、必ず赤ちゃんとか子どもさんたちを安心して見えるところで遊ばせたりして、お世話をする人たちがセットになっている。小さい子どもさんが、下手するとお腹にいるときから、赤ちゃん、小学生、中学生になっても、それが20年経つと成人になる。各世代が満遍なく祭りに関わりを持てる。これを30年ぐらい



やれば、色々な世代が一緒になって、伝統が継承されていく。色々な世代、特に小さな子どもさんがある世代を大事にするということが重要です。

・草刈りの人員不足を確保するにはどうやって草刈りを楽しくするアイデアがつかれるか、若い方達が参加してみたいアイデアが勝負どころです。

## Bグループ 連携・広報

十三峠では、歩く人は増えつつあるそうですが、行政にどの様に伝えていくかが課題だということです。弘前では、長崎さるくを参考にガイドを養成し、まちづくりから観光にシフトしようとされている。監籠海道ではJRの駅長がすすめる小さな旅という企画がございまして、駅長さんが観光案内をしてくれるようになった。商店街もJRと話しをしながら対応してもらっているということで、民間との連携がされていると思われました。江戸の旅日記では120キロという長距離街道での連携はなかなか難しい。行政に協力はしてもらってはいるのですが、28団体で1団体1000円くらいの予算なので、行政が支援してくれないと厳しいということでした。菅江真澄では、広域すぎると散漫になるとのことで、男鹿半島を中心にエリアを狭くしてやっているそうです。桑折では放射能の影響がかなりございまして、風評被害を払拭すべく活動をしているところです。



最後に事業仕分けでなくなった財源をぜひ復活してもらいたいというお願い、道の駅に風景街道コーナーをつくってもらいたいとのお願いがあります。また、風景街道のネームバリューがなさ過ぎるということで、地元の頑張りも必要ですが、国交省さんの方もPRをお願いしたい。

### 〈委員等からのコメント〉

・中部ブロックは風景街道団体に道の駅の駅長が発足当時から全部入っていて、いまSA・PAをどうやって入れるかというようなことで、それを参考に九州、北陸で少しずつ取り組み始めています。道の駅、声をかければ結構協力的ですし、風景街道と相性はよいと思います。

・補助金の復活はいまのところは難しい。各PSにアンケート結果では、半分の団体が補助金・助成金に手を挙げていて、獲得率が85%ですので、引き続き応募していくべきだと思います。

### 〈交流会議の中でのその他のコメント〉

・PSの活動が新聞掲載された場合、日本風景街道という文言が含まれていないケースが多々ある。日本風景街道を浸透させるためにも、取材されたマスコミに対して広報することが必要。

・取材記者の頭のない情報が記事になることはあり得ないので、日本風景街道をPRできる記者発表定型様式を作成するなどの工夫が必要。